

2	一宮	一宮市立向山小学校	ホッタ カナコ 氏名 堀田 佳菜子
分科会番号	20	分科会名	総合学習

1 研究主題

「子どもたちが生き生きと活動する総合的な学習の時間の展開」
～子どもたちの知的好奇心を高める学びをめざして～

2 研究のねらい

本校では、「児童が自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、問題解決や探究活動に主体的・創造的に取り組む資質や能力、態度を育てる」という目標のもと、総合的な学習に取り組んでいる。この目標を受け、4年生は、いちのみやエコスクール活動に参加し、「地球にやさしい学校づくり」を目指した取り組みを行ってきた。そこで、今年度もエコスクール活動に参加し、「今自分たちにできるエコ活動」について考え、実践する機会を設定する。

「SDGs」などの言葉を知っている児童は多いものの、環境問題が世界的な問題として取り上げられていることを知っている児童は少ない。また、児童一人一人が環境保全を意識して日々生活することはできていない。環境についての知識と経験が圧倒的に不足しているのが現状である。

そこで、調べ学習や体験学習などを通して、児童の知的好奇心を高めることで、本校の総合的な学習の時間の目標を実現できるのではないかと考えた。副題にある「知的好奇心」には、「新しいものを広く知りたい」と「わからないものを深く理解したい」の2種類があるととらえている。つまり、「広く知りたい」と「深く知りたい」の両方が子どもの知的好奇心を高めていくと考える。

本実践は、「向山小SDGs」をテーマに、児童が「なぜだろう」「どうなるのだろう」と知的好奇心をもって、主体的に環境について考え、活動できるよう進めていきたい。

3 目指す児童像

「調べる」「知る」ことから、環境について知的好奇心を高め、エコ活動を自ら考え実行できる児童

4 研究の仮説

仮説1 「つかむ」段階において、体験活動や外部講師の話、調べ学習など幅広く学ぶ場を設定し、様々な観点から広い知識を得ることで、環境問題についての知的好奇心を高めることができるであろう。

仮説2 「まとめる」段階において、自ら考えたエコ活動を学校全体に発表し、定期的に活動の結果を知らせる場を設定することで、環境問題についての意識向上をはかり、主体的に活動に取り組むことができるであろう。

5 研究の方法

(1) 研究の手立て

【仮説1に対して】

手立て① 環境問題について、教科横断的に幅広く学ぶ場の設定

- ・ 一宮市環境センターの見学を行い、ごみ処理場の仕組みを知らせる。また、社会科の「住みよいくらし」の学習と関連付ける。
- ・ アクアト岐阜で、SDGsについて学ぶ場を設定し、川の環境問題について知らせる。
- ・ 外部講師によるストップ温暖化教室（出前授業）を受け、自分たちの生活が環境問題とつながっていること

を知らせる。

- ・ 地域の方による SDGs に対する取り組みを聞く場を設定し、自分たちができる活動について考えさせる。
- ・ 外部講師による緑のカーテン講座（出前授業）を受け、緑のカーテンの効果について学ばせる。また、理科の植物「ツルレイシ」の学習と関連付ける。
- ・ 「水育」「明治カカオ」の外部講座を受ける機会を設け、SDGs について様々な方面と関連付ける。

手立て② 体験学習や調べ学習をして、自分が得た知識をまとめる場の設定

- ・ 社会科で、環境問題についての「新聞づくり」を通して、環境センターで学んだことを振り返らせる。
- ・ SDGs について調べ、「ワークシート」にまとめる活動を通して、環境問題について関心を高め、考えを深めさせる。
- ・ 外部講師による講座を受けた後、学んだことを感想にまとめさせる。
- ・ 「向山小 SDGs」をテーマにエコ活動の実践と結果を「スライド」にまとめ、文化的行事である学習発表会で発表させることで、1年間を振り返らせる。

【仮説2に対して】

手立て① 同じ目的のグループを作り、協働的に学び合う場の設定

- ・ SDGs に向けた活動を考えさせ、グループで活動に取り組ませたり経過をまとめさせたりする。

手立て② 全校児童に定期的エコ活動について発表する場の設定

- ・ 全校集会でエコ活動とその目的を宣言させ、学校全体に協力を呼びかける。
- ・ エコ活動の経過報告をスライドにまとめ、定期的に全校集会で発表することで、環境問題についての意識向上をねらう。

(2) 活動計画

	4月	5月	6月	7月	2学期以降
つかむ	【施設見学】 春の校外学習 ・ 一宮市環境センター ・ アクアト岐阜	【出前授業】 ・ ストップ温暖化教室	【地域の方】 ・ 「SDGsの取り組みについて」	【出前授業】 ・ 緑のカーテン講座	【施設見学】 ・ 木曾三川公園 【出前授業】 ・ 水育・明治カカオ
探究する	・ SDGs について、ワークシートを通して調べ学習 ・ 社会科「住みよいくらし」の学習	・ 自分たちにできるエコ活動を考える。 ・ 理科の植物「ツルレイシ」の学習	・ エコ活動を宣言し、実行開始する。 ①節電 ②節水 ③リサイクル（紙資源） ④エコキャップ ⑤食品ロス ⑥緑のカーテン	・ 前年度との変化が調べられるよう、数値を記録する。 ①②電気・水の使用量 ③④回収した量 ⑤大食缶の重さ ⑥カーテンによる気温の変化	エコ活動の実践を継続していく。
まとめる	・ 環境新聞づくり	・ 出前授業の感想 ・ 考えたエコ活動の内容を学級→学年でまとめる。	・ 話を聞いた感想 ・ エコ宣言の内容をスライドにまとめる。	・ 出前授業の感想 ・ エコ活動の経過をスライドにまとめる。	・ エコ活動の経過を定期的に全校集会で発表・呼びかけ ・ 学習発表会

6 研究の実践と考察

(1) 仮説Iに対して

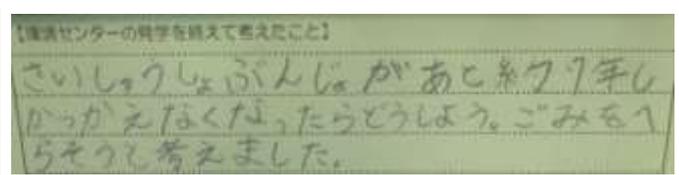
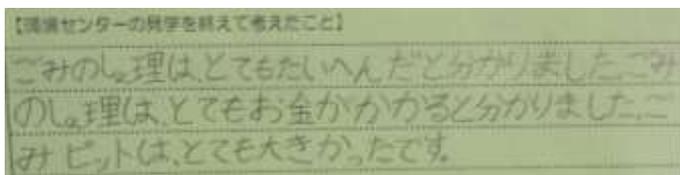
手立て① 環境問題について、教科横断的に幅広く学ぶ場の設定

○ 一宮市環境センターの見学

4月の校外学習で、ごみ処理施設の見学を行った。その施設で働く人からの講義や施設内の見学を通して、ごみ処理の仕組みやごみの分別の大切さを知ることができた。また、ごみ処理場で働く人たちの話を聞き、ごみを減らす活動をしていかなければならないという思いをもつことができた。

(分かったこと)

- ・ 可燃ごみと不燃ごみでごみ処理方法が違うこと。
- ・ リサイクルのために、ごみで捨てられた自転車や家具などをきれいにして、無料で必要とする人に渡す取り組みをしていること。
- ・ ごみを燃やして出た灰を置く最終処分場・埋め立て地が約7年でなくなること。



○ アクアト岐阜の学習プログラム

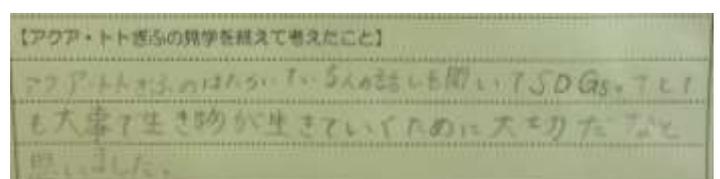
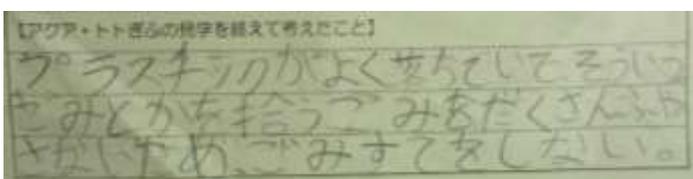
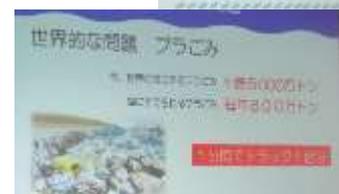
4月の校外学習で、アクアト岐阜を訪れ、SDGsについての学習プログラムを受けた。「川の環境問題」について、①水のごれ、②ごみ問題、③外来種、④絶滅危惧種の観点から、話を聞いた。普段の生活から出たごみや汚れなどが、川に住む生物にどんな影響を及ぼしているかを知ることができた。クイズに答えながら考えたり、示された内容に驚いたりしている様子で、水の大切さを知る機会になった。また、様々な環境問題を考えるきっかけにもなった。

(分かったこと)

- ・ 魚が住める水に浄化するために、コーヒー(200ml)一杯あたりお風呂一杯分の水の量が必要になること。
- ・ ペットボトルやキャップなど、海洋性プラスチックごみが多く川に捨てられていること。
- ・ マイクロプラスチックごみとは、プラスチックごみが小さな破片となったものであること。それを海の魚が食べてしまっていること。
- ・ ペットボトルが分解されるまでに、450年という時間がかかること。
- ・ 外来種や絶滅危惧種がどんどん増えてきているということ。



品名	必要水量 (L)
コーヒー (200ml)	1,000
牛乳 (200ml)	10,000
てんぷら油 (200ml)	300,000

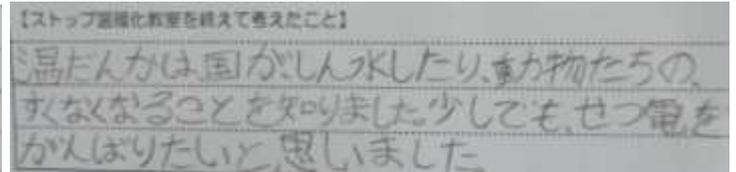
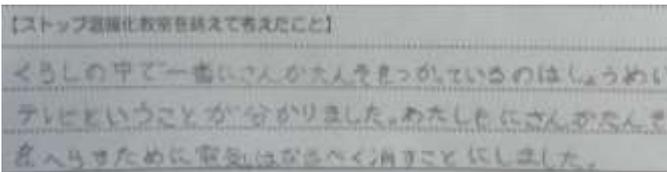


○ ストップ温暖化教室

講師の方に、昔と今の生活の違いや、地球温暖化の原因などについてお話していただいた。電気やガス、ガソリンを使うために、二酸化炭素の排出が多い「石油・石炭・天然ガス」を燃やしているということを知った。その二酸化炭素が地球全体を覆い、地球から放出される熱を閉じ込めてしまっているということを知った。その影響で、海面上昇や気温上昇など様々なところで問題が起きていることも学んだ。自分たちの身の回りのできることとして、エネルギーの使いすぎをなくすために、ちょっとした心掛けでできることがたくさんあることを教えていただいた。節電の大切さを知る機会になった。

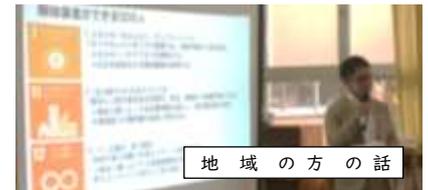


ストップ温暖化教室の様子

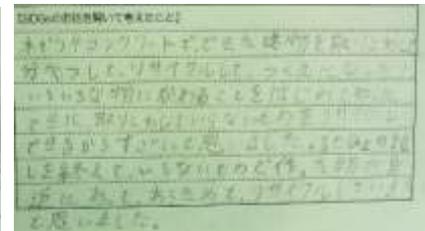
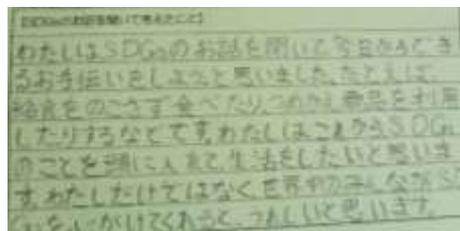


○ 地域の方の話

向山小の卒業生であり、児童の保護者でもある方に SDGs に関する取り組みを教えていただいた。解体の仕事をしており、生前整理・リサイクルなど幅広く活躍されている。解体工事で出た木やコンクリートなどのごみが、その後どうなっていくのかを聞くことができた。また、収集資源は、工場などで加工され、教科書や机、椅子など学校で使っているものに再利用されていることを知った。「日々の暮らしの中で、自分たちにできる取り組みは、何があるかな」という問いかけに、今まで学習してきたり、考えてきたりした「節電と節水を頑張ること」「リサイクルをすること」「ごみの分別をすること」など、次々に発表した。地域の方から SDGs 活動を聞き、環境問題をよりいっそう身近に感じることができ、意識向上につながった。



地域の方の話



問いかけに答える児童の様子

手立て② 体験学習や調べ学習をして、自分が得た知識をまとめる場の設定

○ 社会科「新聞づくり」

これまでの学習と、校外学習における「一宮市環境センター」の見学を通して、学んだことを新聞形式でまとめた。ごみ処理の仕方や、どんな場所があったかなど、いくつかテーマを作り、それに沿って個人個人で新聞を作成した。見学時にメモをとった内容や教科書などを参考にして、絵や文章にしながら学習のまとめをした。自分の言葉で内容をまとめることで、環境問題について理解を深め、自分の考えをもつことにもつながった。



○ SDGsワークシート

校外学習や出前授業で学んできた環境問題が、「SDGs」という言葉とともに、世界的な問題としても取り上げられていることを担任から聞いた。また、SDGsの目標は17あり、それぞれどんな目標であるかを知った。さらに、ワークシートを活用して、自ら関心をもった目標についてタブレットを用いて調べる活動を行った。「EduTown SDGs」というサイトを使い、どんな内容かを詳しく調べ、まとめた。その後、関連している目標が他にないかを選び、自分にできる取り組みは何かを考えた。初めて知る言葉に戸惑いもありながら、どんな目標があるか、興味をもちながら調べる様子であった。それも、実際に見学したり聞いたりしてきた経験があつてこそだと感じた。

○ 出前授業の感想

SDGsに関する出前授業の感想をミニ作文にまとめた。教室の後ろの掲示物として、重ねて貼り、1年間のまとめを考える際に役立てようと計画している。



教室の背面掲示

(2) 仮説2に対して

手立て① 同じ目的のグループを作り、協働的に学び合う場の設定

○ グループ学習

SDGsのワークシート(上記)を活用し、とても関心がある目標は何か、ピラミッド型にカードを並べ、グループの意見をまとめた。また、その並べた理由をグループでまとめ、発表し合った。他のグループの意見を聞き、「食べ物」に関する関心が多かったことや、改めて他のグループが選んだ目標も大切であることに気づくなど、学びを共有することができた。



ワークシート



グループ学習の様子

○ グループでエコ活動の実践

①節電②節水③リサイクル④エコキャップ⑤食品ロス⑥緑のカーテンという6つのグループを各クラス作り、それぞれの活動を考え、実践に移った。7月から活動を開始し、今後継続していく予定である。主な活動内容は以下の通りである。

グループ	活動内容
① 節電	休み時間の見回り 学校全体の水の使用量調査・報告
② 節水	休み時間の呼びかけ 学校全体の電気の使用量調査・報告
③ リサイクル	エコ袋の作成 各教室に設置・回収・計量・記録
④ エコキャップ	ペットボトルキャップ回収のお知らせ 回収・計量・記録
⑤ 食品ロス	食べ残しカレンダーの作成・回収・報告
⑥ 緑のカーテン	緑のカーテンの生育記録・報告 図書館 SDGsコーナーの設置 本のポップ作り

手立て② 全校児童に定期的にエコ活動について発表する場の設定

○ エコ活動の宣言

6月の児童集会にて、今まで学習してきた地球温暖化や絶滅危惧種などの環境問題についてまとめた情報を知らせ、それを根拠にエコ活動を実践していく予定である。代表の児童が、スライドと台本を用意し、4年生で考えてきたエコ活動6つを発表し、環境問題について学



児童集会での様子

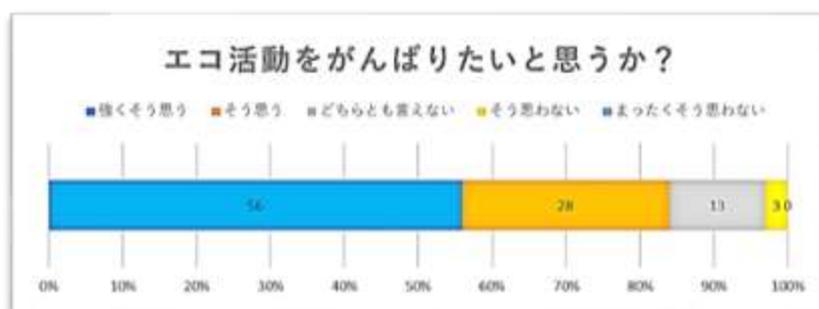
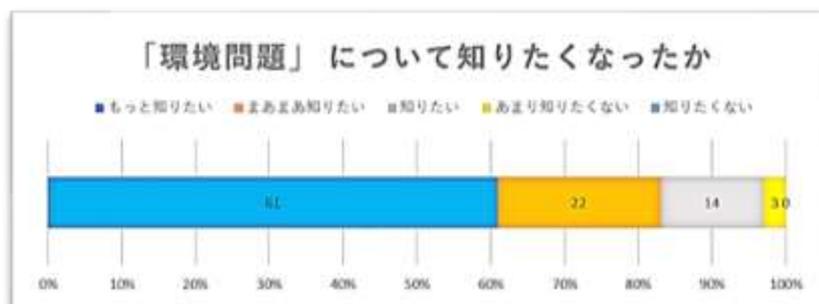
校でできる取り組みに協力してほしいということ呼びかけた。

○ エコ活動の経過報告

7月の児童集会にて、節電・節水グループが活動内容と結果を発表した。2学期以降、月に一度、全校児童に対して各グループの活動報告をすることで、環境保全のための行動を日々心がけて生活するように呼びかけていく計画を立てている。

7 研究の成果

7月、1学期の振り返りとして、4年生全員にエコ活動についてアンケート調査を行った。アンケートの結果を見ると、「環境問題について知りたくなったか」という質問に対して、8割以上の児童が「もっと知りたい・まあまあ知りたい」と回答していることから、校外学習・出前授業・社会科の学習、タブレットを用いた調べ学習などを通して、さまざまな知識を得ることで、知的好奇心を高めることができたということがわかる。また、総合の授業と聞いた児童が、「早く調べ学習したいな」「もっと調べる時間がほしい」とつぶやくことがあり、自ら知りたいという気持ちを高められたと感じた。



また、「エコ活動をがんばりたいと思うか」という質問に対しても、8割以上の児童が「強くそう思う・そう思う」と回答していることから、多くの児童が主体的に活動に取り組もうとしていることがわかる。

学校全体に呼びかけをしたことにより、自分たち4年生が責任をもって取り組むべき活動であるという意識をもって、エコ活動の実践に取り組んでいる様子が見えてきた。休み時間も呼びかけのポスターを作成していたり、同じグループの級友と声をかけ合いながら任せられた活動を全うしようとしていたりする児童も出てきた。

8 今後の課題

本研究は、1年を通して活動を継続し、成果をまとめていこうと考えている。アンケートでは、「エコ活動をがんばりたいと思うか」という質問に対して、約1割の児童が「どちらとも言えない・そう思わない」と回答している。休み時間にエコ活動をするために遊べなくなることや、毎週忘れずに活動しなければならないことに抵抗があるのかもしれない。だが、高学年から始まる委員会活動の練習の一環にもなると考える。少しでも主体的に活動が進められるように、出前授業やエコ活動の集会での発表などを通して、エコ活動に取り組む意義を見いだせるように、引き続き指導していきたい。

取り組みにおいては、学年で統一して活動することができたことが良かった。6つあるエコ活動の担当を割り振ったため、1クラスに2グループずつ集まり、各グループの活動の準備や呼びかけをまとめて行うことができた。全校にエコ活動の協力を依頼する際も、混乱を招かずにスムーズに進めることができた。ただ、「環境」についての知識や経験が不足している状況であったので、児童たちが「SDGs」「環境問題」とは何かを知るための時間が多く必要であった。そのため、エコ活動の開始時期が7月になってしまった。年度末まで活動期間が短いように感じたため、もう少し早くエコ活動を開始したいところであった。